

たんにしょう
東洋の聖書『歎異抄』を読む

H31・2・6(水)
36よろず懇話会
関谷勇

——なぜ今なお、人気絶大なのかを考える——

たんにしょう
まず歎異抄とは…

鎌倉時代に書かれた日本の仏教書。作者は親鸞しんらんに師事した唯円ゆいえん。

内容は親鸞滅後に、浄土真宗の教団内に湧き上がった異義・異端を嘆いたもので、なづけて「歎異抄」と云うべし…偏に同心行者の不審を散ぜんが為也。

800年の眠りから目覚め、現代人に問いかける「宗教的古典」明治末期に出版されてから、日本の教会のみならず一般の思想界にまで広がった。そして親鸞と云えば「歎異抄」、歎異抄といえば「親鸞」と云うことになった。いまや東洋の聖書として世界中に翻訳されていると云う。

日本人の教養として一度は読んでおきたい書物です。

ゆいえんぼう
著者の唯円坊とは…
1222-1289 68才

親鸞68歳、唯円19歳のとき(50才差)、親鸞の弟子となり日常生活の世話をする、面受の弟子、真宗の奥儀に達す、鴻才弁舌の名誉あり、京都の人、親鸞滅後26年のちの晩年 1288年に若い3代覚如に法文(善悪二業)を論じ歎異抄を作成して渡したとされる。

この短い書の構成は…
22 ページ?

1. 序言 耳の底に留まる所、聊いささか之これを注すしる
2. 第1条から第10条まで「師訓篇」親鸞の言葉
3. 第11条から第18条まで「異義篇」唯円の異義批判
4. 後序 なづけて「歎異抄」外見あるべからず
5. 付録 流罪の記録 非僧非俗 愚禿親鸞
6. 奥書 原本は存在しない、蓮如写本のみ

なぜ人気絶大なのか…
なぜ人々の心を奪うのか…
その魅力とは…

親鸞と唯円との息のつまるような、まことに素直で、生き生きとした問答を見事に捉えているところが「歎異抄」のもつ魅力的な特徴である。長所は稀代の宗教家である親鸞の言行(心の軌跡)が実に生々しく語られている点、

短所は異義に応じて書いたので教説が体系的に語られてない点、そのことが「悪人正機説」の強調となり誤解を与えることになるが、しかしこの部分が最も魅力あるところでもあり、宗教的信仰の純粋さが見られ惹きつけられる。

演繹法でわかり易く論理的であるが刺激的な表現が多い。語りは明晰であり日本における宗教のロゴスを語る書物で比肩するものはない。「方丈記」「徒然草」のように名文でかつ読みやすい[中世三大美文]であり、親鸞という人間の純粋さ見事さに読者は魂を抉られるのである。今後も日本人の「心の糧」とし読み続けられると思う……

梅原猛・哲学者 93才

なぜ秘本なのか…

他力を強調した言葉、すなわち知でなくて無知、善でなくて悪を強調した言葉が選ばれているため…親鸞思想の誤解混乱を招くと判断した。

中興の祖・蓮如はその危険性をかぎり秘本とした…その奥書に云う……

「わが念仏一門の聖書であるが、無宿善の機においては左右なくこれを許すべからざるものなり」。原始親鸞教団は宗教的純粋さのあまり教団活動(組織運営)及び宗教の道德化…つまり歴史的必然に適さなかったと云える。

歎異抄の抜粋

条文

たんにしょう
歎異抄

第一条

弥陀の誓願不思議にたすけられまゐらせて、往生をばとぐるなりと信じて念仏申さんとおもいたつころのおこるとき、すなはち撰取不捨の利益にあづけしめたまふなり。弥陀の本願には、老少・善悪のひとをえらばれず、ただ信心を要とすとしるべし。**そのゆゑは**、罪悪深重・煩惱熾盛の衆生をたすけんがための願にまします。しかれば本願を信ぜんには、他の善も要にあらず、念仏にまさるべき善なきゆへに。悪もおそれべからず、弥陀の本願をさまたぐるほどの悪なきゆへにと云々。

たんにしょう
歎異抄

第三条

善人なをもて往生をとぐ、いわんや悪人をや。しかるを世のひとつねにいわく、悪人なを往生す、いかにいわんや善人をや。この条一旦そのいわれあるに似たれども、本願他力の意趣にそむけり。

そのゆゑは、自力作善のひとは、ひとへに他力をたのむころかけたるあいだ、弥陀の本願にあらず。しかれども自力のころをひるがえして、他力をたのみたてまつれば、真実報土の往生をとぐるなり。煩惱具足のわれらは、いづれの行にても生死をはなることあるべからざるを、あわれみたまひて願をおこしたまふ本意、悪人成仏のためなれば、他力をたのみたてまつる悪人、もつとも往生の正因なり。よつて善人だにこそ往生すれ、まして悪人はと、仰せ候ひき。

歎異抄

第五条

親鸞は父母の孝養のためとて一返にても念仏申したることいまだ候はず。**そのゆゑは**、一切の有情はみなもて世々生々の父母・兄弟なり。いづれもいづれもこの順次生に仏に成りてたすけ候ふべきなり。わがちからにてはげむ善にても候はばこそ念仏を廻向して父母をたすけ候はめ。ただ自力をすてていそぎ浄土のさとりをひらきなば六道四生のあいだ、いづれの業苦しめりとも神通方便をもてまづ有縁を度すべきなりと云々。

歎異抄

第六条

専修念仏のともがらの、わが弟子ひとの弟子といふ相論の候ふらんこと、もてのほかの子細なり。親鸞は弟子一人もたず候ふ。**そのゆゑは**、わがはからいにてひとに念仏を申させ候はばこそ弟子にても候め。弥陀の御もよほしにあづかて念仏申し候ふひとを、わが弟子と申すこと、きはめたる荒涼のことなり。つくべき縁あればともなひ、はなるべき縁あればはなることのあるをも、師をそむきて、ひとにつれて念仏すれば往生すべからざるものなりなどいふこと不可説なり。如来よりたまはりたる信心をわがものがほにとりかえさんと申すにや、かへすがへすもあるべからざることなり。自然のことわりにあひかなはば仏恩もしりまた師の恩もしるべきなりと云々。

歎異抄

第九条

念仏申し候へども踊躍^{ようやくかんき}歎喜のころおろそかに候ふこと、またいそぎ浄土へまゐりたきころの候はめは、いかに候ふべきことにて候ふらんと、申し候ひしかば、親鸞もこの不審ありつるに、唯円坊おなじころにてありけり。よくよく案じてみれば天にをどり地にをどるほどによろこぶべきことをよろこばぬにて、いよいよ往生は一定とおもひたまふなり。よろこぶべきころをおさえてよろこばざるは、煩惱の所為なり。しかるに仏かねてしろしめして煩惱具足の凡夫と仰せられたるることなれば、他力の悲願はかくのごとし、われらがためなりけりとしられて、いよいよたのもしくおぼゆるなり。また浄土へいそぎまゐりたきころのなくて、いささか所労のこともあれば死なんずるやらんと、ころぼそくおぼゆることも、煩惱の所為なり。久遠劫よりいままで流転苦せる苦惱の旧里すてがたく…(後略)

歎異抄

第十八

仏法の方に、施入物の多少にしたがって大小仏に成るべしということ。この条、不可説なり。比興のことなり。まず仏に大小の分量を定めんこと、あるべからず候ふか。かの安養浄土の教主(阿弥陀仏)の御身量を説かれて候ふも、それは方便報身のかたちなり。(中略)いかに宝物を仏前にもなげ、師匠にも施すとも信心かけなばその詮なし。一紙・半銭も仏法の方に入れずとも、他力にころがけて信心ふかくは、それこそ願の本意にて候はめ。すべて仏法にことよせて世間の欲心あるゆへに同朋をいひおどさるるにや。

たんにしょう
歎異抄

後序
法語の抜粋

- ◎「善信(親鸞)が信心も聖人(法然)の御信心も一つなり」と仰せ候ひければ勢観坊・念仏坊など申す御同胞達もてのほかにあらずひたまひて、いかでか聖人の御信心に善信坊の信心、一つにはあるべきぞと候ひければ……
- ◎弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、「ひとへに親鸞一人がためなり」されば、それほどの業をもちける身にありけるを、たすけんとおぼしめしたちける本願のかたじけなさよ。
- ◎「善悪ふたつ、総じてても存知せざるなり」**そのゆゑは**、如来の御ころに善しとおぼしめすほどにしりとほしたらばこそ、善きをしりたるにてあらめ、如来の悪しとおぼしめすほどにしりとほしたらばこそ、悪しさをしりたるにてあらめど……
- ◎煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろづのこと、みなもてそらごとたわごと、まことあることなきに、ただ「念仏のみぞまことにておはします」とこそ仰せ候ひしか。

1. 親鸞はひとえに「弥陀の本願」を信じて…

第一条は浄土信仰の根本が語られている。その思想の根本は本願という大無量寿経に語られている思想である。念仏をすれば、あるいは念仏をしようという心が起こったときには既に人間は阿弥陀仏によって極楽往生が保証されているのである、それを信ぜよ。唯円はそれが最高の善であると、大原則を主張している。

2. 悪人正機説…
歎異抄を特色づける思想
悪人救済の聖書

多くの人を驚かせた親鸞の言葉「善人なをもて往生をとぐ。いわんや悪人をや。」常識的な道徳によれば念仏の教えは悪人をも極楽往生させるものだから善人が極楽往生することは当たり前のことになる。しかし、親鸞はこの常識は間違っていると云う。煩惱具足の人間を哀れんで、極楽往生させようとするのが阿弥陀の本意、そういう悪人こそ往生の正因であると云う。道徳の延長線上に宗教はない。

3. 父母の
追善供養しない…

「般若心経」は執着を捨てて成仏せよと勧める経典である。念仏もまたそのような意味を持つ。しかし、一切の生きとし生けるものは、生まれ変わり死に変わり皆われわれの父母兄弟である、よって最後には仏になって助けられるべきものである。もう一つの理由は、念仏は本来、阿弥陀によって与えられる善で、自力の善ではない、自力の善ならばそれを廻向して父母を助けることはできるが阿弥陀の善なのでそれはできないと云う。

4. 親鸞は弟子一人も
もたず候ふ…

はなはだ逆説的な言葉である、宗教とは、もともと弟子や信者をつくるものであるが…。親鸞は云う、念仏はもともと阿弥陀仏から授けられたものであって、わが弟子とかひとの弟子とか、師に背いて念仏すれば往生できないとか、とんでもないことである…と。

5. 念仏申し候へども
踊躍歡喜のころ
おろそかに候ふこと…

それならば念仏をしてもしようがないのではないかという疑問に対して、親鸞はそれだからこそわれわれは念仏をすべきであり、またそれだからこそ極楽往生はきまっていると云うのである。なぜ念仏をしても喜びがわかないのか、それは煩惱のせいであると云う。絶対的な楽天主義の思想である。

6. 布施の行…
無意味とした

お寺や道場への布施の多少によって浄土に生まれてのち大仏になったり小仏になったりするといつて、信者から金品をまきあげようとするのは仏利を利用して欲心を満足しようとするまことにけしからん異義である。しかしながら布施なしには教団活動はなりたない。教団の世俗化に対する唯円の嘆きのあらわれである。純粋な信仰の世界。

7. 善信(親鸞)が信心も
聖人のご信心も一つなり。

法然聖人の仰せは「この源空(法然)の信心も阿弥陀さまから賜った信心である、善信坊の信心も阿弥陀さまから賜った信心である、だからその信心はまったく同じである」と善信(親鸞)とまったく同じ考えであったのです。信心同異の諍論。

8. ひとへに親鸞一人が
ためなり。

宇宙の絶対者(神・仏)と個人の関係。マルティンルターの「神と個人」の関係において「信仰によってのみ神の恩寵が得られる」とした(500年前の宗教改革)。親鸞と同じように信仰の純粹化・内面化・個人化・孤独化の思想である。既存秩序の否定からくる弾圧・非難・謗りを受けたのである。親鸞の屹立している姿がみえてくる。

9. 煩惱具足の凡夫…
罪惡深重の凡夫…

親鸞のいう悪人とは、一般社会通念上の悪人とは次元の異なる概念である。宗教的立場、すなわち仏の前に自己を直視するとき、あらゆる自己の行為、さらには、その存在自体すら悪であるとの認識を云うのである。自分自身のなかにある悪への自覚である。本当の自分を知れば悪人と分かる、すなわちこの世のすべての人が悪人なのである。

歎異抄・親鸞を知る・・・

歎異抄と云えば親鸞、親鸞と云えば歎異抄・・・

- ・私が滋賀県日野町の田舎で子供の時に隣の興教寺の「おっさん」が朝起き会で「正信偈」を唱和していた。
- ・日野高校の日本史の山本先生が「歎異抄」を教えてくれた、内容は理解してなかったが記憶に残っていた。
- ・京都には龍谷大学・大谷大学および東西本願寺など親鸞の足跡が至るところに存在している。
- ・昨年・・・浄土真宗に改宗して黒檀の仏壇(親鸞の掛軸)を新調し西大谷廟に納骨した。
- ・「あの世」のあることを信じない現代人も晩年になると歎異抄を読みたくないと云う・・・
- ・無神論者でも晩年になると神(仏・自然)を受け入れる不思議・・・日本の風土・DNA。
- ・親鸞は、鎌倉時代の節目に現れた宗教改革者だった・・・なぜ生きるのか！の答えを説く哲学者でもあった。

歎異抄の現代的意義:

死んでからゆく極楽浄土を語らずに浄土真宗の教えを説くにはどうしたよいか・・・仏教布教の悩み。
この必要に応じて登場したのが「歎異抄」である、悪人救済のこの書によって人々は人間親鸞の魅力を知り、浄土真宗の思想に魅力を覚える、それはまことに近代的な布教法であり、念仏をすれば死後必ず極楽浄土へ行くと説く昔風の説法が非科学的と云う批判をまぬがれ得ないのに対し誠に合理的な説教となった。ゆえに現代に甦り復活したと云える。

大無量寿経・・・

親鸞が最も尊重した根本経典である、阿弥陀の四十八願の誓願というものが語られている、その中で第十八願は「念仏往生の願」「至心信樂の願」といわれるもので「衆生を浄土へ往生させて悟りをえさせようという釈尊の誓い」が説かれている。釈尊は兆載永劫にわたり修行し願が成立し無量寿仏(阿弥陀仏)と成り、その仏国土の名が「極楽」と説かれている。

親鸞は聖徳太子の生まれ変わりか・・・

聖徳太子は救世観音であり、それが、インドに生まれ中国百済にとさまざまな人格に生まれ変わり・・・それは親鸞ともあるいは親鸞の妻ともなって生まれ変わってくるのかもしれない。ちなみに、法然は智慧の仏・勢至菩薩の生まれ変わりであるとされている。

親鸞の女犯偈とは・・・

聖徳太子の夢告⇒肉食妻帯の公言(破戒)

によぼんのげ] ぎょうじゃしゆくほうせつによぼん がじょうぎよくじょしん ひぼん
[女犯偈] 行者宿報設女犯 我成玉女身被犯
いっしょうのかん のうしやうごん りんじゆういんどうしやうごくらく
一生之間能莊嚴 臨終引導生極楽

六角堂の救世観音から、親鸞は二度にわたって人生の暗示を受けるのである、一度は、専修念仏の教えに踏み切って法然の下へ行けという夢告である。もう一度は、救世観音が夢に現れ・・・もしおまえが前世からの宿報によってどうしても女体なしに生きていけないならば、私は玉のような美しい女身となってお前に犯されてやろう・・・そして一生お前の人生を莊嚴に飾って、臨終の時は極楽浄土へ導いてやろう・・・師の法然は女戒を犯さない清僧であった、しかし、親鸞は専修念仏の教えは罪深い凡人のためであるという「過激な結論」を思い切って実行に移したのであった。叡山の青年堂僧の欲望とは、性欲と名誉欲であったのである。

悪人成仏とは・・・

何故、善人でなくて「悪人」が成仏するのでしょうか？ 宗教的パラドックス。
すべての人々のなかに仏教を布教することを法然・親鸞が考えたとき、煩惱にまみれた衆生をあまねく救済すると云う阿弥陀の本願なるものを引っ張りだしてきた。
ここで云う悪人とは患者のこと・・・すなわち仏教的「戒律」を守れない人間のことを云う。つまりすべての衆生(人間)を指しているのである。仏教の大衆化。しかし弥陀の本願はどんな悪人でも救ってもらえると云う誤解が混乱を招くことにもなった。

例題: 父親殺しの罪を犯した悪人は、はたして宗教的に救われるかどうか！

懺悔(さんげ)して慙愧(ざんき)を懐(いだ)かば、罪すなわち除滅して清浄なること本のごとし(涅槃経)

用語解説

- 1、阿弥陀 [梵語アミターユス漢訳・無量寿、アミターバ無量光]西方の極楽浄土を主宰するという佛の音写。
- 2、本願(誓願) 佛が菩薩の時におこした誓願をいう。歎異抄では阿弥陀仏の四十八願中のとくに第十八願を指す。
- 3、煩惱 ぼんのう 心身を煩わせ悩ませる精神作用の総称。
とくに貪欲(むさぼり)瞋恚(いかり)愚痴(おろかさ)を三毒という。
- 4、慈悲 じひ 仏・菩薩が衆生をあわれみ、いつくしむ心。慈は与樂、悲は抜苦。智慧と並べて重視される。
- 5、信(信心) 疑いわずに信じること、帰依すること。ブツダの教えを信じることによって、こころが清らかに澄みわたることをさしている。キリストの言葉から「信じるものは救われる」
- 6、宿業 しゆくごう 前世に行った善悪の行為、その報い。背負った運命。強調すると無力感を助長してよくない。
- 7、極楽と浄土 欲望が無限に充足する世界 →永遠な光明に照らされる「光の世界」親鸞は云う。
- 8、地獄 法然の念仏の普及によってまさに地獄はほぼ消滅した？
- 9、口称念仏 ⇔ 観想念仏 くしょうねんぶつ ⇔ かんそうねんぶつ 心の中に仏の姿や功德を念ずること。
- 10、名号 みょうごう 仏・菩薩の名前を名号という。浄土教では南無阿弥陀仏の六字の名号。
- 11、非行・非善 ひぎょう ひぜん 念仏は修行でもない善行でもない。念仏易行ねんぶつ いぎょう[難行]にたいして[易行]
- 12、厭離穢土・欣求浄土 おんりえど ごんぐじょうど 浄土思想の原則である。
- 13、十悪五逆 じゅうあくごぎやく 10種類の悪行為①殺生②偷盗ぬすみ③邪淫④妄語うそ⑤両舌なかつがいがいさせる言葉…
5種類の重罪①父殺し②母殺し……
- 14、輪廻転生 りんね てんしょう 死んであの世に還った靈魂がこの世に何度も生まれ変わってくることを云う。
- 15、化現・化身 けげん けしん 生まれ変わり死にかわり 衆生を救い仏教を布教するという。霊の再生。

あの世観

「あの世」という人類の体系的思弁がなければ文明もなかった…[京大哲学者・梅原猛]
宗教に知的関心があるが宗教の説く超越と神秘のふたつはまっぴらごめん…「日本の知性」
「死んだらおしまい」「死んだらどこへ行くのか」を考えることは…**妄想か!**
「死んでゆくこと」に備えやシミュレーションをやっていますか…[東大社会学者・上野千鶴子]
無神論者も死の直前になると変わると云う日本の風土 DNA…**80歳ごろ**
ひとり「死にゆくとはさびしいもんや」…自然に還ると考える…自然信仰
死ぬときは迷い迷って苦しんで悩みぬけばよい…親鸞の言葉
自力本願から他力本願へ…唯物論から観念論へ…唯心(信)論のすすめ(関谷)

ここで問題提起

- ・「あの世」を信じますか！ 実質的な内容を欠くと云う意味で死語。
- ・「お迎えが早く来てほしい！」とは日本人特有の死生観である。
キリスト教では「神に召される」と云う。
- ・(キーワード)唯心(信)論・「寛容」の精神・「安穩」の境地

インド仏教 BC5 世紀
 シナ仏教 BC1 世紀
 百済伝来 6 世紀
 南都北嶺
 法然・親鸞 13 世紀
 現代 21 世紀・歎異抄

怨霊国家鎮護

阿弥陀仏の本願

大無量寿経

本願寺

設立者3代覚如
 中興祖8代蓮如



信仰の光
 信仰の内面化
 懺悔廻心
 平等の思想
 女性正機

—ただ疑いなく仏を信じて念仏する—

七高僧
 竜樹
 天親
 曇鸞
 道綽
 善導
 源信
 源空

親鸞の思想

二種深信
 二種浄土
 二種廻向
 自然法爾

法然 1133-1212

浄土教

浄土真宗

800年前の日本最高の思想家

しんらん
親鸞の世界

1173-1262 90才

浄土真宗の開祖 愚禿親鸞

きょうぎょうしんしょう
教行信証

しょうしんげ
正信偈

きみょう むりょう じゆ によらい
婦命無量寿如来

さんじょうわさん
三帖和讃

観想(見仏 or 念仏):

単純化を愛する日本人は
 観想法を捨てた!

—生きていた時代には無名の人が日本最大の宗教家として尊敬されるのは何故か?—

口称念仏:

南無阿弥陀仏の名号を
 口に出して唱えること。

自力と他力:

自らの力で善根を修め浄土へ往生
 しようとすることを自力と云う。
 他力とは本願力のことで阿弥陀仏の
 誓いを本願(誓願)と云う。

世に知られて 100 年
 古典的名著・東洋の聖書

ゆいえん たんにしょう
唯円の歎異抄

1222-1289 68才

強烈な宗教的パラドックス

異を嘆いたものなが
 ら親鸞という人間を
 見事に描いている魅
 力のある書物

キ
 ワ
 ー
 ド

学問の府としての比叡山 9才時のとき
 法然(源空)門下 29才
 承元の法難 35才→越後7年→常陸 21年
 第7子の覚信尼 52才
 長男の善鸞を義絶 84才
 妻の恵信尼消息
 血脈相承
 往相廻向・還相廻向

悪人正機説
 善人なをもて往生をとぐ。
 いわんや悪人をや。

寛容

<H30なりゆき>

(スタート)京都アスニー講座→五木寛之→倉田百三→野間宏→高森顕徹→梯實圓→西田幾多郎
 →梅原猛→折口哲雄→親鸞会アニメ6巻→龍谷大学公開講座(進行形)